

講義名	経営組織論 B		
担当教員	瀧本 隆弘		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

組織とは我々人間の能力の限界を克服するために形成されるもので、それをもって人間社会の進歩が実現された。「組織の時代」である現代をよりよく生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠である。経営組織論は、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業という組織を研究対象としている。

本講義では、現代経営と組織というテーマで講義を進めていきたい。つまりここでは、現代の高度化した産業社会における企業の抱える様々な変化を背景として、企業経営はどのような問題に直面し、それらにどのように対応しているのかを企業の組織と管理を通じて明らかにする。できる限り現実の社会で発生している企業の事例を取り上げ、それを組織や管理の視点から考察していきたい。「経営組織論A」は基本編、「経営組織論B」は応用編として講義が行われる。

到達目標

本講義では、毎回ケース（事例）を使用して、理解を深める。組織のあるべき方向を探ることで、組織は変化するビジネス環境に対していかなる適応力を持つべきかを考える。本講義を通じて企業という組織の中で働く自分をイメージしてもらい、就職活動に向けて、職業選択や企業選択を行う上での選択根拠を養う。

提出課題

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、提出課題も変更される可能性がある。後期開講科目は現時点では、対面型講義で行われる。

1. 講義の中で「小レポート」の提出を求める可能性がある。ただし、課題提出の回数が増えた場合は、実施しない。
2. 簡単な課題の提出を求める。（数回・不定期）講義内容に沿ったテーマで、講義の進捗となるようなテーマが選択される。課題はケースを使って進められるので、正解を求めるのではなく、問題解決型の思考方法で課題を作成することが求められる。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題の解説については、講義中にクラス全体に向けて行う。

履修者が多い場合は、講義は全体に向けて行う。オンデマンド型講義になった場合でも、流料ポータルを通じて実施する。

履修者が30名以下の場合は、個別に講評を行い、流料ポータルのメールアドレスへ返信する。

評価の基準

この講義は対面型講義で行われる。後期の授業は原則対面実施の講義とオンデマンドの講義に分かれますが、コロナ蔓延の場合、講義は、オンデマンドもしくはLIVE (Skype for Businessなど) に切り替わる可能性があります。

対面型講義の場合は、試験（60％）
後期中頃のレポート（20％）
数回の簡単な課題（20％）で評価を行う

ただし、課題提出の回数が多くなった場合（4回程度）は、レポートは実施せず試験の比率を40%とする
出欠調査は行わないので、出席点はない。
以上の総合評価でゼミの成績とする。

コロナ拡大時のオンライン方式（オンデマンド又はLIVE）の場合、ライブビデオや流料ポータルの活用により、毎回の課題提出で評価と出席チェックに代替する。

コロナ拡大に伴い講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない

履修にあたっての注意・助言他

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、様々な変更が行われる可能性がある。流料ポータルを定期的にチェックする習慣を持つこと。後期開講科目は現時点では、対面型講義で行われる。

1. この講義は、講義中に提示されるパワーポイントのスライドを中心に、テキストは特に指定しない。
講義内容のスライドはすべて流料ポータルからダウンロードできるようなようにしてある。
スライドのアップやダウンロードのタイミングは講義中に提示する。
プリント資料なども、必要なものはすべてダウンロードできるようにしてある。
こちらからプリント配布は一切行わない。
講義開始までにダウンロードの方法を確認すること。
2. 出席調査は行わず、上記の講義中に提出する課題で出席点に代える。
3. 経営学関連の講義をある程度履修しているほうが望ましい。
4. 中間試験は行わず、小レポートを実施する。
ただし、課題の回数を多くして（4回目程度）、中間レポートを中止する場合もある。

教科書				
.教科書は使用しない。				

プリント資料及び参考文献

プリント資料適宜
流料ポータルより受講生自身でダウンロードすること。

参考文献
谷口和弘 『組織の実学 個人と企業の共生化』NTT出版、2008。
田原実雄著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010。
慶田研太郎・田尾雅夫 『組織論』有斐閣、1998。
森本三男 『現代経営組織論第2版』学文社、2001。

授業計画

*組織とともに進化（個人と組織の共生化）
第1回 ケース1 ミートホープ

*組織を動かせたかどうか（リーダーシップ）
第2回 ケース2 村上正彰
第3回 ケース3 松下幸之助
第4回 ケース4 スティーブ・ジョブズ

*分業とコーディネーションの形（組織形態）
第5回 ケース5 ソニー
第6回 ケース6 セブンアンドアイ・ホールディングス

*組織で共有された特有（組織文化）
第7回 ケース7 松下電器
第8回 ケース8 トヨタ自動車

*市場も適宜に利用する（組織境界）
第9回 ケース9 富士フイルム
第10回 ケース10 ホンハイ

*制度をまとめて組織を作る（組織デザイン）
第11回 ケース11 福岡航空運転事故
第12回 ケース12 YKK

*組織を変える（組織イノベーション）
第13回 ケース13 松下電器2
第14回 ケース14 映画「スパーの女」
第15回 資生堂

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

ケース（事例研究）を使用した、問題解決型思考の講義を目指す

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義で使用するスライドや資料は流料ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップする。

講義中にダウンロードの指示があったら、次の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは定期試験終了時まで可能にしてあるので、復習や試験勉強にも使用すること。講義資料や課題テーマについて準備や確認を行うことを前提として、講義の前、予習に2時間、講義の後、復習に2時間を捻出してほしい。

課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。また、講義はケースを使って進められるので、正解を求めるのではなく、問題解決型の思考方法で課題を作成することが求められる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義では、様々な業務における組織行動の現状分析を行い、経営理論に基づきながら仮説、検証を通して答えを導き出す問題解決型思考を養う。事例研究を使用して、組織の問題を克服する戦略を具体的に考えることにより、企業や組織のリーダーに求められる、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

- ・学生のモチベーションを上げる。
- ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
- ・学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。
- 学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えないことき、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。
- ・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。状況に合わせて対応することに留意する。

対面型講義の場合は、以下のオフィスアワーを利用してコンタクトをとるように。

オフィスアワー： 瀧本 月・水 12：10～12：50